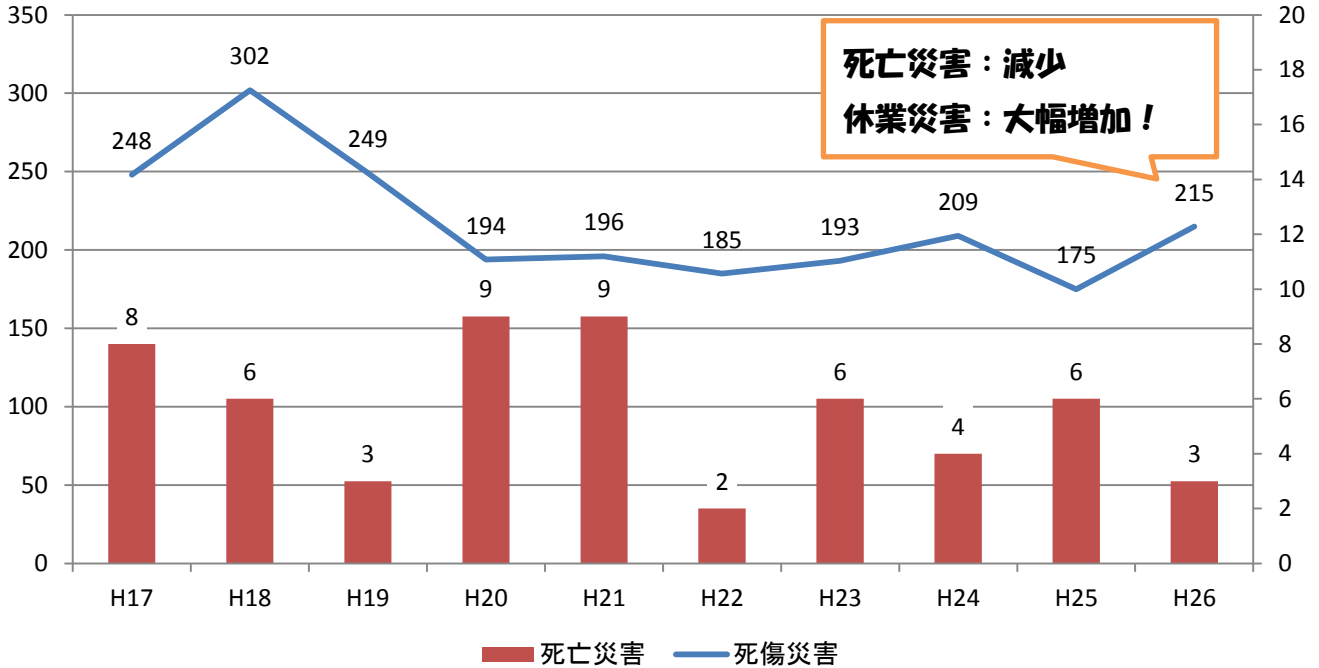


建設業における労働災害を防止しましょう！

～建設業において労働災害が多発～

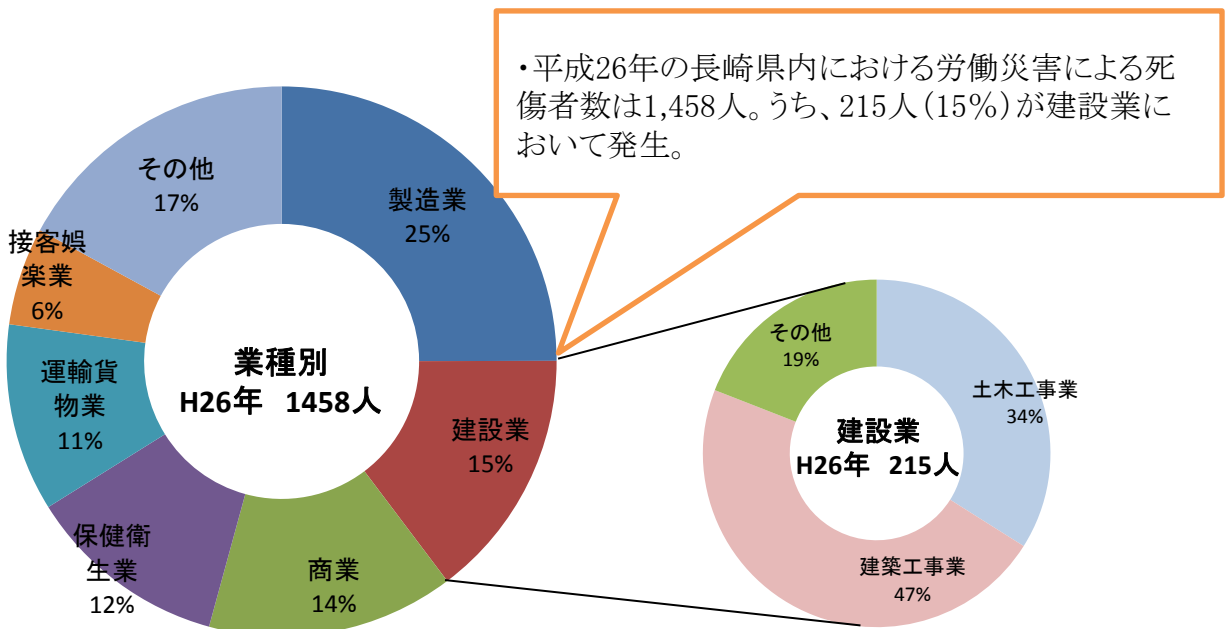
H27.5月作成

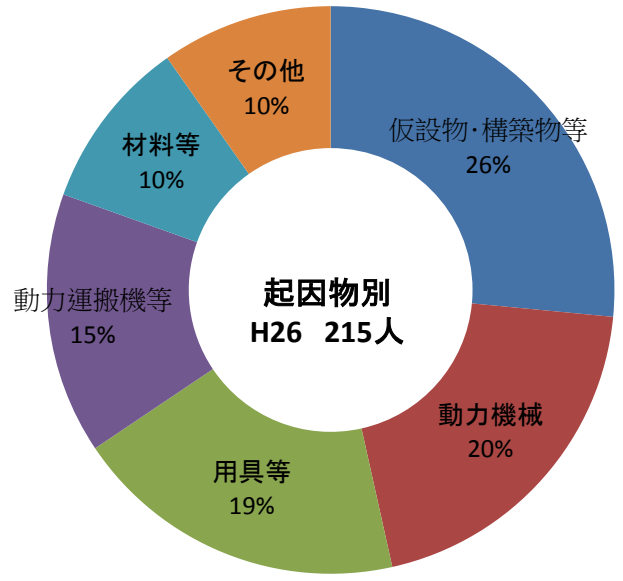
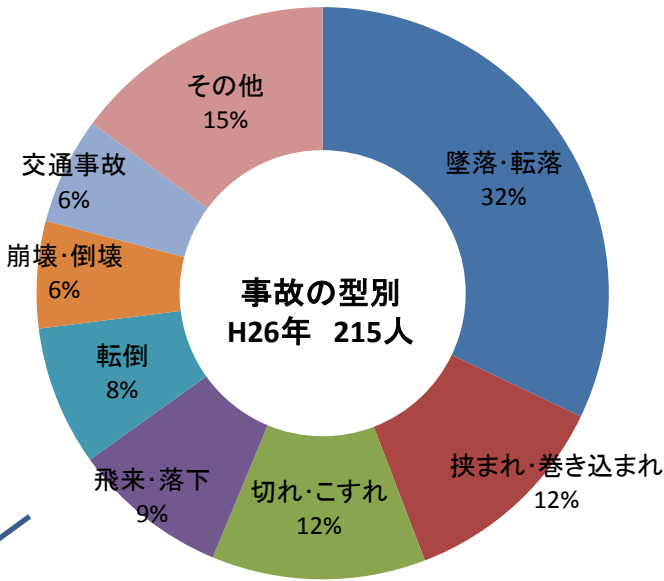
建設業の労働災害の推移(長崎県内)



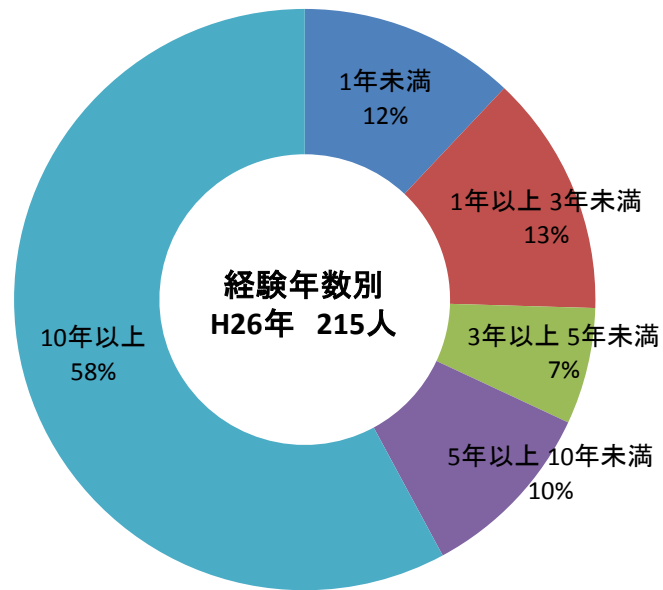
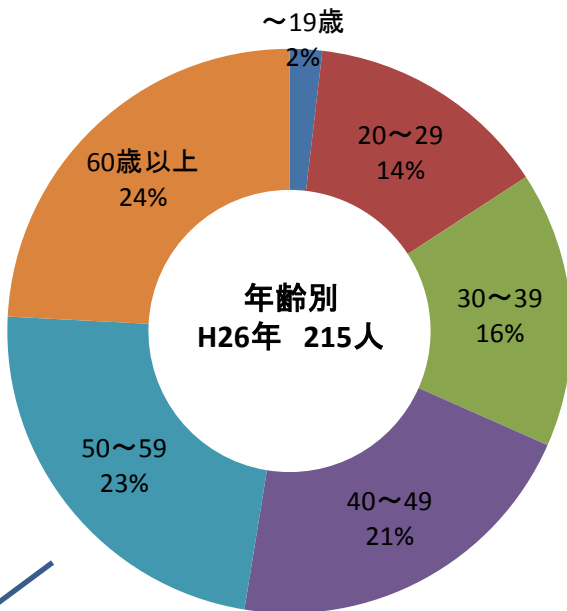
県内の労働災害による死傷者数は平成20年に初めて200人を下回り、一昨年(平成25年)は過去最少(175人)となるも、昨年は増加に転じ平成20年以降最も多い人数(215人)となった。

作業床等からの墜落や重機の転倒、土砂崩壊などいわゆる「建設業の三大災害」による死亡災害も毎年発生している状況にある。





建築工事では、屋根や足場からの「墜落・転落」災害が多発
土木工事現場では、重機の「転倒」や「挟まれ・巻き込まれ」災害が多い



年齢別では、40歳以上の労働者が多く被災し、
経験年数では、10年以上のベテラン労働者が被災するケースが最も多いが、3年未満の未熟練労働者による労働災害も目立っている。

死亡災害の再発を防止するための安全チェックリスト

	チェック項目	判定	安衛則条文 通 達
丸のこ盤	丸のこ盤に安全カバーが付いていますか？ 安全カバーは有効に作用しますか？	はい いいえ	115条・123条 28条
	携帯用丸のこ盤を取扱う作業者に安全衛生教育を実施 していますか？	はい いいえ	H22.7.14 基安発0714
解体 作業	作業中の墜落、部材の落下、構造物の倒壊等を防止す るため、作業の方法、順序等を定めた作業計画を作成して いますか？	はい いいえ	517条の2他
	解体等に係る作業主任者や作業指揮者を選任し、その 者に作業を直接指揮させていますか？	はい いいえ	517条の4他
	倒壊のおそれのある箇所には、立入禁止措置を講じてい ますか？	はい いいえ	517条の3他
	車両系建設機械(解体用)の運転には、有資格者を配置 していますか？	はい いいえ	41条
高所 作業	高所作業では、墜落防止措置(足場の設置、手すり等の 設置)を講じていますか？	はい いいえ	518条他
	労働者に安全帯を着用・使用させていますか？ (足場の組立等にあつては、二丁掛安全帯)	はい いいえ	518条他
重機 作業	車両系建設機械で荷を吊る際は、クレーン機能付きの重 機を使用していますか？	はい いいえ	164条
	車両系建設機械の運転には有資格者を配置していま すか？	はい いいえ	41条
	車両系建設機械の転落等を防止するため、作業の方法、 運行経路等を定めた作業計画を作成していますか？	はい いいえ	155条
管 理 体 制	(元請)店社安全衛生管理者を選任し、会社から現場へ指 導援助を行っていますか？	はい いいえ	18条の8
	(下請)職長等教育を受けた者を現場に常駐させ、労働者 を直接指揮させていますか？	はい いいえ	安衛法60条

判定で「いいえ」となった場合は、即時、改善を図りましょう。

改善方法が不明なときは、お近くの労働基準監督署へお問い合わせください。

平成26年・27年 死亡災害の概要(建設業)

発生年月	災害発生状況	災害原因
H26. 7月	携帯用丸のこ盤を用いて木材を切断中、丸のこ盤の歯が右太ももに接触し、出血性ショックにより死亡したもの。 (被災者年齢62才、経験年数3年)	歯の安全カバーが機能していなかったこと。
H26. 12月	解体途中のコンクリート製水路の上で作業中、床が崩れ落ち、約1.5m下の水路内へ転落。 転落した被災者の上に重さ760kgの崩れた床(コンクリート塊)が落ちてきて、頭蓋骨骨折により死亡した。 (被災者年齢30才、経験年数11年)	解体中の危険個所を立入禁止とせず、安全な通路を確保していなかったこと。
H26. 12月	鉄骨2階建て民家の解体工事現場において解体作業中、1階ひさし部分が落下し、当該ひさしの下敷きとなり腰椎・肋骨等を骨折し、出血性ショックにより死亡したもの。 (被災者年齢32才、経験年数7年)	解体中の危険な個所を立入禁止とせず、作業を直接指揮する鉄骨解体等作業主任者を選任していなかったこと。
H27. 3月	浄化槽の埋設工事現場で、掘削した深さ2.3mの穴にバランスを崩して転落。 穴の底に置いてあったドラグショベルのバケットで頭部を打ち、死亡したもの。 (被災者年齢79才、経験年数20年)	墜落を防止するための設備を設けていなかったこと。
H27. 3月	宅地の石垣積み作業において、ドラグショベルで石を吊り設置作業中にドラグショベルが転倒し3.4m下の道路へ転落し死亡したもの。 (被災者年齢57才、経験年数39年)	重機を主たる用途以外に使用していたこと。
H27. 4月	養鶏場の屋根の修理作業中、高さ約7mの地面に転落し、死亡したもの。 (被災者年齢76才、経験年数50年)	墜落を防止するための設備を設けていなかったこと。

